## 親子 サポーター



障がいの為に自分の体をうまく動かせない人たちが、一生懸命ボールを見て、ラケットを振って、ボールを打とうとする姿勢は、子ども達にも伝わっています。次男(4歳)も皆がテニスを楽しそうにしているのを見て、テニスを好きになってくれると思います。

終わった後は、その日にどんなお手伝いをしたか、どれくらいボールを拾ったか、どれくらいラリーが続いたかなどを皆で話しています。

長男がお手伝いやボール拾いを一生懸命頑張った時にはたくさん褒めるようにしています。これも子ども達の 間近で、子ども達がどのように動いているかを見られる機会を与えてもらっているからこそだと思います。

## 親子 サポーター



【息子 小5】「勉強が急しく、なかなかテニスを練習する機会がなくて、お父さんに誘われて参加することになりました。障がいを持った人とは接したことがなかったので、最初は行きたくないと思っていたけれど、参加してみたら、健常者と変わりない人も多く、決めつけてはいけないなというふうに思いました。

最初はスポンジボールで、一緒に練習をしていましたが、今は運営のお手伝いをしていて、球拾いや、ラリー数の集計をやって、たまにラリーの相手をしています。

ぼくがお手伝いすることで、みんなが楽しくテニスをして、喜んでもらえたらうれしいです。これからもボランティアをして、みんなを喜てばせられたらいいなと思っています。



【父親】子ども(当時 7 歳 ? )にテニスを始めさせる、あるいは子どもと一緒にテニスをするきっかけとして BLACKSOX のチャレンジテニス! に参加し始めました。

当時子供が通っていたスイミングスクールでも障がい児を受け入れていたのですが、プールサイドを奇声をあげながら走ったりしているのを見ており、障がい児に対して、子どもは近寄りがたい雰囲気を感じていたようです。

一方で、BLACKSOX のチャレンジテニスでは、保護者の方や運営サイドの経験と努力によって、障がい児たちもテニスに集中し活発で、かつ安全にテニスを楽しんでいます。

ボランティア活動に参加した経験も、障がい児者のお手伝いをした経験も全くなかったのですが、その様子から「少しお手伝いが必要な子ども(人)たち」ぐらいの見方へと参加回数を重ねるにつれて、私自身も子どもも変わったのだろうと思います。

テニスは紳士淑女のスポーツです。もちろん、競技として続けていって、あるレベルに到達すれば勝負も大事にはなりますが、礼儀作法、あるいは対戦相手やパートナーへのリスペクトなどもテニスの基本・本質的要素だと思います。

テニスを通じて、障がい児含めた子どもたちがそのような基本・本質を身につけていくことが、チャレンジ テニス!では可能だと思います。

## 親子 ボランティア



最近私の子供たち(2人とも)がテニスを習い始めました。と言いましても本格的なものでは無く、知り合いの方に軽く教えてもらう程度の内容です。 それもあって会社のボランティアプログラムの一覧の中に本プログラムを見つけ、子供たちに「車椅子のお友達や、普段運動とかができないお友達のテニス教室があるから、玉拾いとかのお手伝いに行く?」と聞いてみました。

最初は「自分たちがテニスをできないなら行かない」と言っていましたが、私から「テニスって楽しいよね? だったら車椅子のお友達や、普段あまりテニスができないお友達がテニスをして楽しいって気持ちになったら うれしくない?」と聞いたところ「そうだね。うれしいね。」と答えてくれました。

「じゃあ、お手伝いに行こうよ」とさらに聞くと「じゃあ、行ってみる」と答えてくれたので申し込みをする こととなり参加に至りました。

参加後の帰り道に本人たち(子供たち)に感想を聞いたところ「すごく楽しかった」「車椅子のお友達も楽し そうで良かった」「教えてもらえてうれしかった」という答えでした。

数日後改めて聞いたところ、幼いなりに少し振り返って考える期間があったためか

「行く前は玉拾いって聞いていたのに一緒にテニスをしちゃって良かったのかな?」

「反省会の時にちゃんとしゃべれなくて失敗した」

「ペアを組んだお兄さんがサヨナラをする時に何度も握手をしてきて、帰るのが寂しかったのかな?」と言っておりました。

私からは「二人が一緒にテニスを楽しんだからみんなも楽しいなって思った時もあったんじゃないの?」「反 省会は反省の言葉以外に楽しかったこととかも言っていいんだよ」

「お兄さんは二人のことが弟や妹に思えて、教えることもうれしかったんじゃないの」 と伝えました。

そして二人とも「また行きたいね」とも言っていたので「今度は本当に玉拾いかもよ?それでも行くの?」と 私から聞いたところ、「それでも行きたい」と答えてくれました。

最初は子供たちも緊張していたのが見ていても分かりましたが、いつの間にか溶け込んで参加された子供たちと自然に楽しそうにプレーをしていました。

反省会では私の子供たちは恥ずかしくて答えられませんでしたが、家族だけのミニ反省会ではしっかりと思っていることを言ってくれましたし、「また行きたい」と言ってくれたことで私自身も連れて行って良かったと感じられました。

また機会があれば子供たちのためにも参加したいと思います。

下の娘さんが中学生になり、部活動で忙しくなるまでの小学校の間6年続けて参加してくれました。

記入 NPO-BLACKSOX 西野耕太郎